

教育方法論

教職課程科目／2 単位／T 授業

担当教員 長友 道彦

■使用テキスト 柴田義松・山崎準二(編著)『教育の方法と技術(第三版)』学文社

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

現在、中学校や高等学校の教師としての力量や能力を形成することが求められている。そのために、先哲の業績を手掛かりに、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、適切な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用などの知識・技術を修得し、さらに教育評価に関する基礎的な教員としての知識・技能を修得することを目的とする。

到達目標

- 1) 教育の目的と、教育内容、教育方法との関連性について説明できる。
- 2) 先哲の教育思想の要点について理解し、現代の教育との関わりについて説明できる。
- 3) 授業づくりの観点から授業の構造や「学び方」、学習内容について理解を深めるとともに、説明できる。
- 4) 学習指導案の意義について理解を深め、実際に自分の担当する教科目についての学習指導案を作成することができる。また、教育評価の意味や方法について理解を深め、授業の目的は生徒の価値ある変容であることを説明できる。
- 5) 教育課程について理解を深め、学習指導要領を中心とする教育課程に関する法制について説明できる。
- 6) 教育効果を高める教材・教具・情報機器の使用法について理解を深めるとともに、実際に活用することができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1回 教育方法史(1)

ソクラテス法(産婆術)～コメニウスの教授法の特徴～ルソーの教育方法思想

第2回 教育方法史(2)

ペスタロッチの開発教授法～ヘルバルトとヘルバルト学派の教育学・教授学～20世紀初頭の新教育運動

第3回 教育方法史(3)

明治期近代学校制度の成立と公教育教授定型～大正自由教育と昭和戦時期教育

第4回 カリキュラム(教育課程)論(1)

学習指導要領の歴史の変遷～学校の教育課程の編成

第5回 カリキュラム(教育課程)論(2)

「総合的な学習(探究)の時間」の意義と課題～特別活動の意義と課題～「特別の教科 道徳」の意義と課題

第6回 授業論(1)

授業の構造と意義～学習指導案の意義と作成手順～授業(教育)目標づくり

第7回 授業論(2)

問題解決学習～体験的学習とアクティブ・ラーニング

第8回 授業論(3)

教材研究と教材解釈～展開のある授業～学校における安全教育(防災教育)

第9回 教育技術(1)

教育技術の特質～集団づくりの意義と方法～習熟度別指導の実践と課題～チーム・ティーチングと教師の連携

第10回 教育技術(2)

ICTの活用とプログラミング教育～教育メディアの種類と活用法～インターネットの教育利用～メディア・リテラシーと情報モラルの育成

第11回 教育技術(3)

板書とノート指導のあり方～調べ学習のあり方～机間指導の意義と方法～模擬授業の意義と方法

第12回 教育評価(1)

学力とは何か：リテラシー、コンピテンシーとしての学力
～絶対評価と相対評価、目標に準拠した評価、個人内評価
～診断的・形成的・総括的評価による「指導と評価の一体化」

第13回 教育評価(2)

到達目標と方向目標、規準と基準
～自己評価と相互評価の意義と課題
～新しい評価方法としてのポートフォリオ評価とパフォーマンス評価の意義と課題